

富山大学大学院持続可能社会創成学環（修士課程）案内

1. 教育研究上の目的

持続可能社会創成学環は、持続可能な社会の構築に必要な理工学及び社会科学の学際的な理論及び学際的応用を教授研究し、その深奥を学び、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識、卓越した能力及び倫理観を培い、持続可能社会の構築に貢献する人材の育成を目的とします。

(1) 社会データサイエンスプログラム

現代社会にあふれるデータを適切に読み解くことで課題発見・解決を行うとともに、そこから新しい価値を創造して地域活性化やSDGs達成に貢献できる人材を育成する。

(2) グローバルSDGsプログラム

持続可能な社会を構築するために解決が必要な諸課題について、自らが新たなる知を創造し、その知から更なる価値を生み出す能力とグローバルに活躍するための基礎となる英語力を身に付け、社会が直面する様々な課題に新たな解決策を示すことができる人材を育成する。

2. 教育課程の特色

本学環の教育課程の特色は、「持続可能社会」の実現に向けた課題解決ができる人材を養成することを目的として、現代社会が直面する課題に対して「地域」と「地球規模」の両方の視点から、文系、理系の広い分野の科目を開設することです。本学環は、主として、社会科学（経済学、経営学）及び理工学（環境科学、都市デザイン学）分野の教員から構成されており、「持続可能社会」の課題解決に際して、常に社会・環境・経済の視点から考えられるように授業科目を開設しています。

学生は、幅広い知識を身に付ける大学院共通科目、「持続可能社会」に関する幅広い知識や実践力を身に付ける学環共通科目、課題解決のために必要な専門的な知識や技術を身に付ける学環専門科目により、普遍的能力と専門的能力を身に付け、複数指導教員による多面的な視点による研究指導を受けます。

本学環では、学生自身が設定した課題に対して、分野横断的な学修を重視しています。そのため、講義や演習、実習による学修に重きを置いたカリキュラムを両プログラムに共通して設けています。特別研究に配分される時間が従来のカリキュラムに比べて少ないため、授業計画が設計しやすく、結果として社会人を対象とした学び直しのニーズにも対応可能です。グローバルSDGsプログラムにおいては、特別研究による学修を重視した従来型のカリキュラムも同時に用意しており、学生のニーズに応じて選択が可能なカリキュラム編成となっています。

3. 教員（専任）の研究指導内容一覧

社会データサイエンスプログラム

(https://www.gss.u-toyama.ac.jp/program/social_data_science/)

研究領域	教員氏名	研究指導内容
経済学	教授 唐渡 広志	経済統計学，計量経済学において，不動産価格指数分析，都市・地域経済分析，不動産市場分析についての研究指導を行う。
経済学	教授 モヴシュク オレクサンダー	計量経済学において関連テーマについての研究指導を行う。
経済学	教授 本間 哲志	金融論，産業組織論，計量経済学において，銀行業の産業組織に関する理論的及び実証的分析についての研究指導を行う。
経済学	教授 八木 迪幸	環境経済学において、環境効率・生産性の分析および非市場評価に関する研究指導を行う。
社会学	教授 中村 真由美	社会調査法，調査データ解析において，地方創生や労働・ジェンダーなどの関連テーマについて研究指導を行う。
経営学	教授 横山 一憲	オペレーションズリサーチにおいて，数理最適化などの関連テーマについての研究指導を行う。
情報科学	准教授 春木 孝之	計算科学，未病科学，プラズマ物理学において関連テーマについての研究指導を行う。
都市デザイン学	教授 堀 祐治	環境工学・設備工学において，建築と都市における評価，向上，循環型社会に向けた環境負荷削減，エネルギー消費削減と再生可能エネルギーへの転換等，都市と建築のデザインに関する研究指導を行う。
交通計画	准教授 猪井 博登	土木計画学，交通工学，都市計画において，公共交通整備のインパクト評価や自動車から公共交通への行動変容に関する研究指導を行う。
地質学	准教授 安江 健一	地形学，地質学において，地域防災や教育観光についての研究指導を行う。
固体地球物理学	教授 渡邊 了	固体地球物理学において，地球内部の物質や状態の推定に関する研究指導を行う。
気象学	教授 安永 数明	中緯度、熱帯におけるメソ、総観規模の気象現象に関わる研究の指導を行う。
応用気象学	准教授 濱田 篤	雲や降水に関わる気象現象について，データ解析を中心とした研究に関する指導を行う。

グローバルSDGsプログラム

(https://www.gss.u-toyama.ac.jp/program/global_sdgs/)

研究領域	教員氏名	研究指導内容
分析化学	教授 倉光 英樹	環境化学および分析化学的な研究においてSDGsに関連した課題を取り上げ、新規センサーや分析法の開発とそれらを利用した環境計測に関する研究を指導する。
土壌環境学	講師 佐澤 和人	土壌・水環境中の有機物質を対象に、その科学的分析環境汚染物質との相互作用、および、それによって生じる生態毒性変化に関する研究指導を行う。
地球化学	教授 張 勁	化学海洋学と環境地球化学においてSDGsに関連した課題を取り上げ、必要な学術情報の収集とその理解、調査研究手法に関する研究指導を行う。
地球化学	教授 堀川 恵司	環境地球科学においてSDGsに関連した課題を取り上げ、必要な学術情報の収集とその理解、調査研究手法に関する研究指導を行う。
地球化学	助教 鹿児島 涉悟	地球表層の物質循環や火山・地震活動とSDGsに関連する課題を取り上げ、その解明に向けて地球化学的手法を用いた研究の指導を行う。
生態学	教授 和田 直也	生態学および環境保全科学においてSDGsに関連した課題を取り上げ、必要な学術情報の収集とその理解、調査研究手法に関する研究指導を行う。
水圏生態学	助教 ピーターソン マイルズ イサオ	保全生態学の研究課題に取り組み、特に水生環境で重大な影響を及ぼしている外来種の定着プロセスや生態系影響の研究を行う。
害虫管理学	准教授 土田 努	生物間相互作用や内部共生現象を対象として、総合病害虫管理や生物遺伝資源利用に資する課題の指導を行う。
環境物理学	准教授 榎本 勝成	レーザー分光の技術を用い、大気汚染物質や重金属含有分子などの特徴や反応素過程の調査や、環境モニタリング技術の開発についての研究指導を行う。
経済学	教授 八木 迪幸	環境経済学において、環境効率・生産性の分析および非市場評価に関する研究指導を行う。
経営学	教授 馬 駿	組織における人材のマネジメント、および人材開発政策に関する研究において、必要な学術情報の収集とその理解、定量分析とフィールド調査の手法に関する研究指導を行う。
地域研究	教授 堀江 典生	移民研究および境界研究においてSDGsに関連した課題を取り上げ、必要な学術情報の収集とその理解、調査研究手法に関する研究指導を行う。
サステナビリティ学	教授 ギータ モハン	サステナビリティ学において、SDGsに関連した課題を取り上げ、気候変動が持続可能な農業と食料安全保障に与える影響やサステイナブルな水管理の研究指導を行う。

<p>サステイナビリティ学</p>	<p>准教授 チャクラボルティ シャミック</p>	<p>サステイナビリティ学においてSDGsに関連した課題を取り上げ、社会生態系についての観点から天然資源の持続的利用や生態系サービスの評価についての研究指導を行う。</p>
<p>サステイナビリティ学</p>	<p>助教 シシル シャーミン</p>	<p>土地利用や環境保全分野においてSDGsに関連した課題を取り上げる。GIS（地理情報システム）やリモートセンシングなどの最先端技術を駆使して、生態系や自然環境の保全に取り組む。また、基礎的な学術知識や研究手法の整理・理解に関する研究指導を行う。</p>